

学番	42	県立見附高等学校
----	----	----------

令和8年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを生徒が目指す姿として意識し、教育活動に真摯に取り組む。 2 教職員全員で、いじめを許さない、見逃さない学校体制で取り組み、安心・安全で信頼される学校づくりを行う。 3 地域社会から必要とされる学校として、地域と連携した教育を推進する。 4 教員が生徒への教育に集中でき、めりはりのある働き方改革を推進する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	①「深慮にして実践」「誠実にして勉励」「和親にして敬愛」の教育目標の下、物事に主体的に取り組む姿勢を育成します。 ②自身の健康を保ちつつ、社会的な自立を目指し、多様性を尊重しながら他者と協働して取り組む力を育成します。 ③教科横断的な視点をもち、様々な学習活動をとおして、創造力、行動力、コミュニケーション能力を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	①生徒一人ひとりの目標や進路希望が実現できる教育課程を編成し、教育活動を展開します。 ②3年後の進路を見据えた学力の定着と活用に向け、ICT機器を活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を行います。 ③自己の在り方生き方を探究するため、「総合的な探究の時間」を主軸に、課題発見・解決、自己表現の育成に取り組めます。 ④様々な状況や環境に対応し自己の力を向上させるため、ボランティア活動やインターンシップ、外部検定試験など、生徒が自ら挑戦できる機会となる情報を積極的に提供します。 ⑤学校行事や部活動などの生徒の主体的な活動の支援に向け、安全・安心な教育環境に努めます。	
入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	①自分の進路希望を実現するため、主体的に学ぼうと努力する生徒 ②思いやりの心を持ち、他者と協調して、活力ある学校生活を送る生徒 ③将来自立し、地域社会に貢献しようとする意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
ICT機器を活用した分かる学習指導を推進した。また観点別評価、特に主体的に学習に取り組む態度の見取りについて、校内研修を企画し、職員間の議論を深めてきた。 いずれも、生徒の学習活動の質の向上につながっている。 今後は、月ヶ岡特別支援学校見附分校や、地域社会との更なる連携を図り、それを外部に発信することで、開かれた学校づくりを進めることが課題である。	(1) 授業改善とICT利活用の推進	① 「主体的・対話的で深い学び」の観点から授業改善を行い、評価に反映させる。 ② 探究活動を通じて、生徒自らが考え行動する力を養う。 ③ ICT機器の利活用を推進し、自発的に学ぶ姿勢を養う。 ④ 生徒一人ひとりの進路希望実現を図るため、具体的な支援を行う。
	(2) 豊かな人間性の育成と多様な人々の共生	① 学訓「最善を尽くす」の下、心身を鍛え、感性を磨き、挑戦する気持ちを育む。 ② 地域とつながることで、社会性を育て、コミュニケーション能力を高める。 ③ 月ヶ岡特別支援学校見附分校との教育活動を通じて、他者理解を深める。
	(3) 時間外の勤務時間の削減	① 会議や業務内容を見直し、削減・簡素化・効率化を行う。 ② 「新潟県部活動の在り方に係る方針」を遵守し在校時間の短縮を行う。 ③ 定時退庁日は速やかな退庁を促し、退校時間の短縮を行う。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
基礎学力の養成と学習習慣の確立	①主体的・対話的で深い学びの観点から授業改善を行う	生徒一人ひとりが他の生徒の視点を取り入れた協働的な学びの授業づくりを行う。（教務、学年）		
		観点別評価を充実させる。（教務）		
		生徒による授業評価を活用し、授業改善に生かす。（教務）		
		発達段階に応じた題材設定や ICT の活用により、生徒の興味関心を引き出しわかりやすい授業と基礎基本の定着を図る。（教務）		
	②探究活動と学習習慣	「総合的な探究の時間」を中心に人間力を高め、進路実現に向けた目標を持てるように支援する。（学年）		
		学習の進度と習熟に合わせながら、適切な課題等をとおして、学習習慣を身につけさせる。（教務）		
	③ICT 機器の活用を推進	ICT を活用した授業づくりを推進する。（教務）		
		ホームページや note を定期的に更新し、生徒の学びを発信する。（教務）		
		ICT を活用し、生徒の個性に対応した授業を推進する。（教務）		
	④生徒一人ひとりの進路希望実現	学期ごとに面談を行い、自己理解と進路啓発を進める。（学年）		
		進路希望調査や面談等から生徒の進路希望状況を把握する。進路ガイダンス、上級学校見学やインターンシップを実施して、生徒の進路実現に向けて指導を行う。（進路）		
豊かな人間性の育成と多様な人々との共生	①心身を鍛え、感性を磨き、挑戦する気持ちと創造力を育成	学校行事や特別活動等をとおして、積極的に取り組む姿勢や挑戦する力、創造力を育成する。（学年）		
		講演会や学習会をとおして、相手を尊重し、差別を許さない感性を磨く。（人権教育）		
		生徒会を中心に主体的に活動できるよう支援する。（生徒指導）		
	②礼儀と秩序を重んじ、社会性を育成	清掃や保健指導をとおして、規律ある学校生活が過ごせるよう支援する。（生徒指導）		
		公共交通機関の利用マナーの指導、自転車運転ルールの遵守指導を行い、規範意識を高める。（生徒指導）		
		携帯電話等の電子機器の使用ルールを徹底する。（生徒指導）		
	③多様な人々を理解し、「かかわる同和教育」を推進	同和教育を中核として、種々の人権課題について授業に取り組む。職員研修をとおして、全教職員の人権意識を高める。（人権教育）		
		拉致問題等の解決に資するよう、気運の醸成を図る。（人権教育）		
		定期的に「他者とのかわりアンケート」を実施し、いじめの予防・早期発見に努める。（いじめ）		
時間外の勤務時間の削減	①業務の見直し	校務運営委員会で業務の削減・簡素化・効率化を検討する。		
	②部活動指導の適正化	部活動は計画的に行い、学校閉庁日は、部活動をしない。週休日、祝日の登庁簿にて事前に申請する。（全職員）		
	③在校時間の短縮	職員会議の時間短縮を実行する。定時退庁日の時刻を守りワークライフ・バランスを保つ。（全職員）		
成果			総合評価	